

松山での日本地方財政学会(1)

5月19~20日に四国・松山の松山大学で第15回日本地方財政学会があった。19日の午後に「分権一括法・道州制の行方と地方財政」をテーマに全体シンポジウムが行われた。パネラーとして加戸愛媛県知事と飯泉徳島県知事、星川愛媛新聞論説・編集担当、それに行政学の大森東大名誉教授、学会理事長である神野東大教授である。コーディネーターは開催校の鈴木教授がつとめた。「第2次分権改革」が推進されているが、焦点の一つが道州制である。両知事が道州制推進の立場から「熱弁」をふるう一方で、メディアや学会サイドからは疑問が提示され、なかなか興味深いシンポジウムとなった。



今なぜ道州制なのか、道州制の功罪をめぐって議論が展開された。道州制導入に懸念をいadak大森教授の独特のコメントには説得力があった。また星川氏が世論調査の結果から、国民もここ1年で道州制に批判的な意見が多くなっており、それは市町村合併を経験したことが影響しているという指摘も参考になった。

ところで松山に訪れたのは、数年前に愛媛大学の大学祭の講演に招かれたとき以来だ。松山といえば、坊ちゃんや道後温泉とともに、街中を縦横に走っている市電が印象的だ。伊予鉄道が運行しているが、「1デーチケット」がなんと300円とお徳であり、さっそく買って松山駅から大学まで乗った。街中の景色を眺めながら乗る市電は、なんといっても情緒



がある。翌20日はトップバッターでの学会報告であり、懇親会も早めに引き上げて宿泊先のホテルに向かい、報告の最終チェックを行った。

(2007年5月29日 記)